

図IV-5 地域別環境特性モデル《低山帯》

ハイパス道路・
休養施設建設

➔

ミティゲ-ション
制度の活用

生息樹林地
の 荒 廃

➔

自然共生型
の 林 業

●オオタカ生息地における現況の評価

- ・営巣地確認箇所は6箇所、うち繁殖の成功が確認されたのは2箇所である(1998年12月現在)。
- ・営巣木の規模が平均で約270haと大きい、営巣木はスギ・ヒノキ人工林内などのスギを中心とした針葉樹が使用されることが多く、営巣環境として森林施業に伴う問題が懸念される。
- ・生息環境は、樹林地等の自然的環境は量的に多いが人工林の占める割合が高く、生物多様性が保たれるような森林管理が必要とされる。

●保護方策検討のための調査のポイント

- ・既往情報の収集に際しては、地域の住民や観察者のほか、周辺で農作業をしている人から聞き込みを行う。
- ・踏査に際しては、事前に地権者の了解を得て行い、調査員の安全面に特に留意する必要がある。
- ・定点調査に際しては、起伏が多い地域であるため、平地部の調査よりも見はらしの利く定点を設置することが可能だが、調査員の安全面に特に留意する必要がある。

